



つ く し 野

町田市立つくし野小学校
令和2(2020)年
校長 佐々木 研一
6月30日発行 No. 4

URL <http://www.machida-ky.ed.jp/e-tsukushino/> 町田市つくし野2-21-11 TEL 795-3295

新しい日常と身につけたい習慣

副校長 石川 淳

通常登校が再開し、学校に子供たちの活気が戻ってきました。楽しさでテンション高めの子がいる一方、まだ学校の生活時間に身体が馴染んでいないのか、疲れが見えはじめた子もいます。今後も飛沫飛散防止の工夫と手洗い、消毒を励行しています。

今回の新型コロナ禍で、感染した人やそのご家族、医療や社会生活を維持する業務に従事している方への偏見、差別意識、いわれのない流言が広まる等、人権を侵害する事象が問題になっています。子供たちやそのご家族、教職員に置き換えた時、同じように人権を侵害する事象が急激に表れる可能性は否定できず、全校朝会で話し、道徳や学級活動でも指導していきます。

社会心理学の研究では、流言やデマが作られ広がるのに三つの条件があるとされていて、その三つは足し算ではなく掛け算で増大していくそうです。①重要な事柄（個人的に放っておけないと感じた話題は周囲の人に話したくなる。）②曖昧な内容（混乱状態の中で何が起きているのかよくわからない間は、聞き及んだものがあり得るような気になってしまう。）③不安な時（人は自分の気持ちに合った情報を集める。「私は不安になって当然」という情報を敢えて集めてしまう。）そしてそれらが、日頃個人が持ちあわせている感情にぴったり、自分の思想にぴったりという時が要注意だそうです。本当か嘘かを確認する側から、意図せず、あるいは何がしかの故意を加えて話を作り、広げる側にまわる瞬間です。

人は不安な時、不安であることを表現したくなります。怖いなら怖い、悲しいなら悲しいと表現した方が、その人の不安は和らぐからです。「ああ怖かったねえ」「私も本当にどうしようかと思ったよ」のようなレベルならばいいのですが、そこでストーリーを語りはじめてしまうと、周りにいて話が聞こえた人が確かな情報と感じてしまうのです。時に無責任な当て見当がくり付けられてどんどん大きな話になったり、具体化しているように見えたりしていきます。

では、流言やデマに踊らされないようにするにはどうすればいいのでしょうか。NHK クローズアップ現代「フェイクバスターズ」のひとり、外科医の山本健人さんは、番組の中で「科学的根拠があるかどうかを常に考える習慣。いま目の前にいくつかの選択肢がある中で、どれを選ぶかとなったときに「科学的根拠があるものが安全」という発想をすることが絶対に必要」と話していました。その上で、怪しい情報を見極めるポイントとして【だ・し・い・り・た・ま・ご】の7つを挙げていました。

だ - 誰が言っている？

し - 出典はある？

い - いつ発信された？

り - リプライ（返信）欄にはどんな意見が？（netの場合）

た - たたき（攻撃）が目的ではない？

ま - まずは一旦保留しよう

ご - 公的情報を確認した？

作られ広がる三つの条件も考え合わせ、流言やデマ、ひいては偏見や差別意識が入り込む余地を作らず、むしろ遠ざけていくような習慣を身につけたいものです。子供は身近な大人から良くも悪くも大きな影響を受けます。私たちは子供たちの身近な存在であればこそ、正しく知って正しく恐れる、揺らがず判断する実践をしていきたいです。